



表情をしてい
んとも特徴は
岩のそれは、
言われまうと
ばあさんとも
に「しようづ
奪衣婆像は俗

す。衣婆像が
で数例しか確
（じんとうじ
司録像、人頭
魔王像、司命
は唯一となる
囲に富岡市内
共同墓地の一
思っていまし
造物群、これ
市内では黒岩
造物群、これ
共同墓地の一
思っていまし
造物群、これ
市内では黒岩



砂田西の石造物群

奪衣婆（だつえば）
閻魔王（えんまおう）
司命（しみよう）司録（しろうく）

黒岩探訪

たんぼう

37

KUROIWA
くろいわ

す。一見愛らしいようでもあり、誠
に恐ろしいようにも見えます。『富岡
市の石造物』（富岡市教育委員会）に
よると、奪衣婆は、死後七日目に三
途の川を渡ってくる罪人の衣服を奪
い取りそれを懸衣翁（けんえおう）
に渡す役目をもっています。川を渡
った時の衣服の重さで罪業の軽重が
決まるとも言われています。
閻魔王は前述の文献によると、仏
の世界で亡者の罪状を決める判官
（ほうがん）である十王（じゅうお
う）の中心的な役割があるそうです。
司命は、十王配下で人の生命を司
り罪状を究明する役人です。右手に
筆、左手には書物（巻物）をもつて
います。
司録も十王配下の役人で、閻魔王
に従い罪状を記録し、それを読み上
げる役目があります。
前述の文献では「黒岩地区下黒岩
砂田西に、高さ五〇センチの丸彫り
型の閻魔王があり、そこには、人頭



奪衣婆像

杖や司命・司録・奪衣婆などの十王
信仰に関連した像がそろっている。
としています。十王信仰は、中国の
道教に影響を受けたもので、室町時
代から民衆に浸透し、江戸時代初期
に広まって各地に十王の石像が建て
られたそうです。
砂田地区の一番南の小字名は「十
王山」です。何か関連がありそうで
す。次号、字名十王山の考察に続
きます。



（左から）司命像 閻魔王像 司録像